

2014/2/20

## 柏の景気情報（平成26年1月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 経営支援二課  
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18  
TEL : 04-7162-3305  
FAX : 04-7162-3323  
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>  
E-mail : [info@kashiwa-cci.or.jp](mailto:info@kashiwa-cci.or.jp)

## 柏の景気情報（平成26年1月分）

○ 調査期間 : 平成26年1月23日 ~ 1月29日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

### <産業別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	90	57.7%
建設	44	24	54.5%
製造	33	18	54.5%
卸・小売	43	32	74.4%
サービス	36	16	44.4%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

### 質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

### 質問B 業界内のトピック(記述式)

--

$$DI値 = 1 \text{ 増加他の回答割合} - 3 \text{ 減少他の回答割合}$$

#### ※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

#### ※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成26年1月の調査結果のポイント】

◀業況DIは消費税増税前の反動が改善続くも、先行きへの懸念あり▶

○1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲2.2(前月水準▲14.4)となり、マイナス幅が12.2ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業△22.2(同±0.0)、建設業△29.1(同△13.6)であり、製造業はプラス幅が22.2ポイントと大幅に拡大した。マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業±0.0(同▲16.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲40.6(同▲37.1)である。

【建設業】からは、「一部の元請では職人の不足に対し、育成への補助を始めたところもあるが、まだ一部であり、政府の現場をだせばよくなる的な片手落ちの政策では、実感が伴わない。」(石工れんがタイルブロック工事業)、「不景気に依るメーカーの生産縮小もあり、材料の生産が追いつかず、材料確保も早めの手配が必要となっている。工期に間に合わせる為、応援の作業員を高い賃金での確保となり、採算が合わない結果となっている。」(その他の職別工事業)、「ダンブや人夫、下請けの値段が上昇している。」(土木工事業)、「6月頃までは仕事量有り。7月から先は？」(その他の職別工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「部品の製作依頼先でも仕事一杯で忙しい所はある。但し一時的で先行きは見通せないようである。」(その他の機械・同部品製造業)、「印刷業界の技術開発は目を見張るスピードで進化しています。広告手段も個人で出来るようになってきました。仕事をして成り立たせる為の意識改革が常に問われている状態です。」(印刷業)、「資源国に対しての輸出の伸び悩みがあり、受注量が減少している。なお、受注量の減少している中、雇用に関しては現在の所維持したいと考えているが、今後は不透明である。」(一般産業用機械・装置製造業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「正月動向：動員客数とも苦戦、特に婦人衣料のセールが前年を大きく下回る。ただし中旬以降春物商材に動きが出てくるにつれて持ちなおす。12月苦戦の高額商材は、1月に入って再び動きが活発になる。」(百貨店)、「12月が業界では前半全く振るわなかったが、後半やや持ち直した感があったが、新年に入り昨対では客単価は上がっているがバーゲンでも客数が増えず、結果売上げが減少した感じ。」(婦人・子供服小売業)、「1月度、毎年盛況である初売りの福袋販売は、昨年40周年により個数を増した反動により減少したものの、実需需要の伸びにより前年を上回る結果となった。」(その他の各種商品小売業)、「先月に引き続き、野菜・果実とも昨年の異常気象による育成不振、急な寒冷等により、入荷不足から一部商品は高値傾向にあります。」(食料・飲料卸売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「仕入れ単価の上昇。食材の値上げの後、アルコール類値上げの通告。「日本酒・ワインの値上げ」1月よりメーカーの値上げ、問屋さんは2月より値上げになる。」(酒場・ビヤホール)、「個人需要は国内・海外とも1月と3月が前年超え。東京近郊、関西、ハワイ、ヨーロッパは不動の人気。法人需要は昨年を下回っている感がある。」(旅行業)、「今後不動産所有に対する税金やコストが上昇しそうなのでそれに対策に取り組みたい。」(不動産賃貸・管理業)、「年度末が近付き小物案件がでてますが、新年度に繋がると思えないしるものです。アベノミクスは何処やら、賃金UPなど検討外、単発企業では難しく、同業者集まり大きな案件を創る企画を行政を併せて検討出来たらと思う。」(ソフトウェア業)などのコメントが寄せられた。

◎消費税増税

各業種から、「相変わらず消費税増税前の駆け込み需要なのか、新築・リフォーム・一般顧客からの畳工事の注文が増加。」(内装工事業)、「消費税増税絡みの駆け込み発注は現時点、見受けられない。原材料価格は為替と市中の在庫量とのバランスが保たれているためか、比較的安定している。」(特殊産業用機械)、「消費税増税前の仮需を見込むが、4月以降の反動については不透明」(酒類製造業)、「4月からの消費税の増税により、売上の下落が予想されます。また3月の末からは値段の表示などの変更があり作業量が多くなると思われる。」(その他の各種商品小売業)などのコメントが寄せられた。

◎原材料の値上げ

各業種から、「年度末と消費税のアップを控えて、工事の受注は多いが、原材料の値上がりだけでなく品薄が広まっている。価額に転嫁できず苦しい経営が続くだろう。」(電気工事業)、「仕入れ単価は、材料が輸入品の為替変動による上昇の為単価が上がり始めている。」(時計・眼鏡・光学機械小売業)、「メニュー誤表示の影響もあり牛肉の値上がりとなる。宴会は昨年並みの売り上げである。」(ホテル)、「不動産の仕入れ価額、建築費、資材の仕入れ単価は上昇しています。採算は悪化。」(不動産管理業)などのコメントが寄せられた。

◎人手不足

各業種から、「納期が期末のまま、遅れていた工事をいつせいに終わらせようとする為、様々な職種で職人不足が顕著になっている。」(石工れんがタイルブロック工事業)、「前年からの業者不足、職人不足が続いている。建築業界全般の業者・職人不足の為、工期の遅れが目立つ。」(その他の職別工事業)、「設備の導入時期が重なるため、人員が不足している。」(その他の機械・同部品製造業)、「人手不足、特に若年層の減少が見込まれ、仕事量は増加するであろう。この先の働き手の確保を考えている。オイルショック後、ベテラン熟練者の高年齢による退職者の不足分の補いが充分でなかった為、人手不足の状況となっている。」(一般機械器具卸売業)、「所有不動産物件の修繕やリフォームをやるにも職人さんと材料が足りないです。ミニバブル期みたいですよ。」(不動産賃貸業)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
8月	▲21.5	△3.8	▲17.6	▲45.4	▲17.6
9月	▲22.5	△7.6	▲22.2	▲50.0	▲17.6
10月	▲12.7	△25.0	±0.0	▲41.9	▲26.6
11月	▲14.9	△8.3	△6.6	▲45.4	▲6.6
12月	▲14.4	△13.6	±0.0	▲37.1	▲16.6
1月	▲2.2	△29.1	△22.2	▲40.6	±0.0
見通し	▲10.0	△16.6	▲5.5	▲34.3	▲6.2

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成26年1月の業況についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲2. 2(前月水準▲14. 4)となり、マイナス幅が12. 2ポイント縮小した。

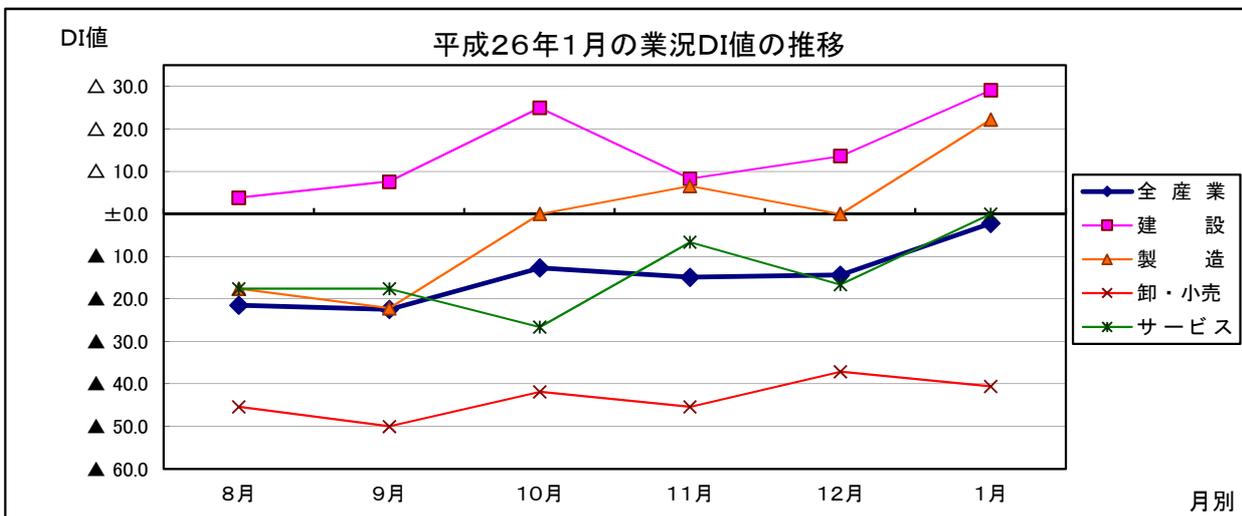
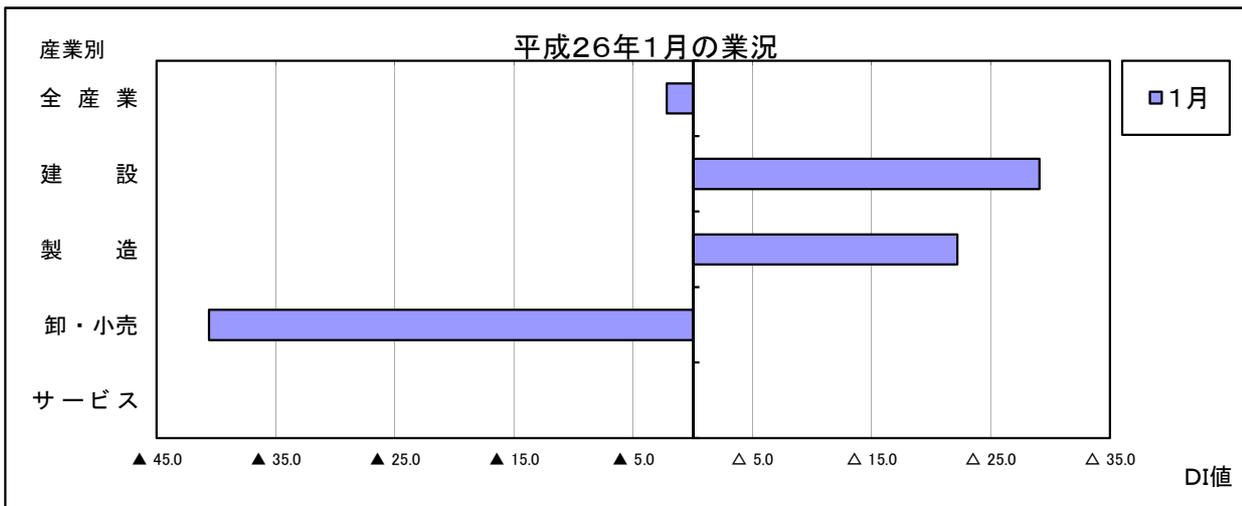
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業△22. 2(同±0. 0)、建設業△29. 1(同△13. 6)であり、製造業はプラス幅が22. 2ポイントと大幅に拡大した。マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業±0. 0(同▲16. 6)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲40. 6(同▲37. 1)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲10. 0(前月水準▲19. 2)となり、マイナス幅が9. 2ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、建設業△16. 6(同±0. 0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲34. 3(同▲40. 0)、サービス業▲6. 2(同▲8. 3)、製造業▲5. 5(同▲7. 1)である。

平成26年1月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成25年 8月	9月	10月	11月	12月	平成26年 1月	先行き見通し 2月～4月(1月～3月)
全産業	▲ 21.5	▲ 22.5	▲ 12.7	▲ 14.9	▲ 14.4	▲ 2.2	▲ 10.0( ▲ 19.2)
建設	△ 3.8	△ 7.6	△ 25.0	△ 8.3	△ 13.6	△ 29.1	△ 16.6( ±0.0)
製造	▲ 17.6	▲ 22.2	±0.0	△ 6.6	±0.0	△ 22.2	▲ 5.5( ▲ 7.1)
卸・小売	▲ 45.4	▲ 50.0	▲ 41.9	▲ 45.4	▲ 37.1	▲ 40.6	▲ 34.3( ▲ 40.0)
サービス	▲ 17.6	▲ 17.6	▲ 26.6	▲ 6.6	▲ 16.6	±0.0	▲ 6.2( ▲ 8.3)



【平成26年1月の売上についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△2. 2(前月水準▲1. 2)となり、プラス幅が3. 4ポイント拡大した。

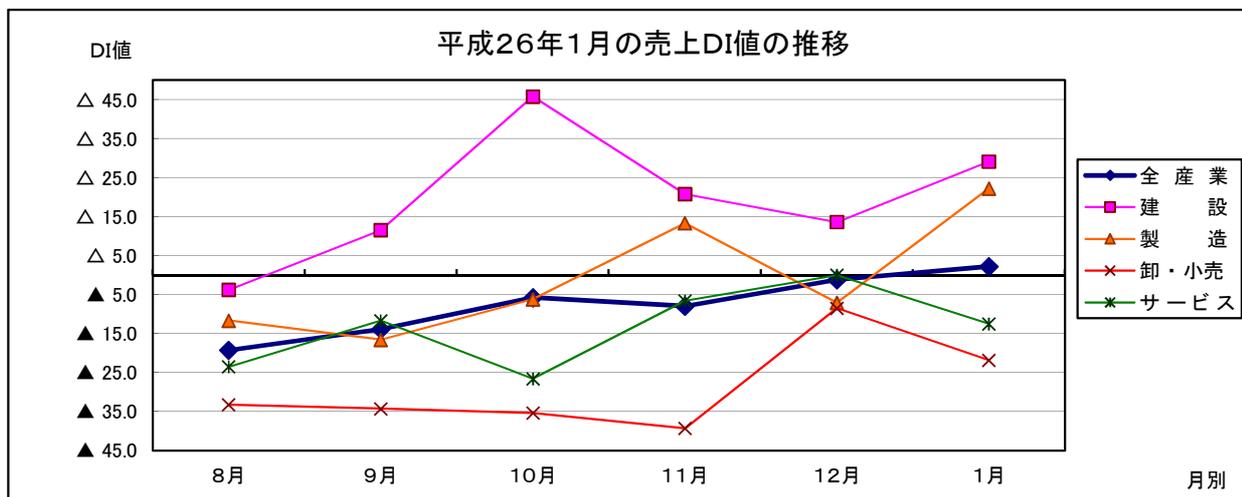
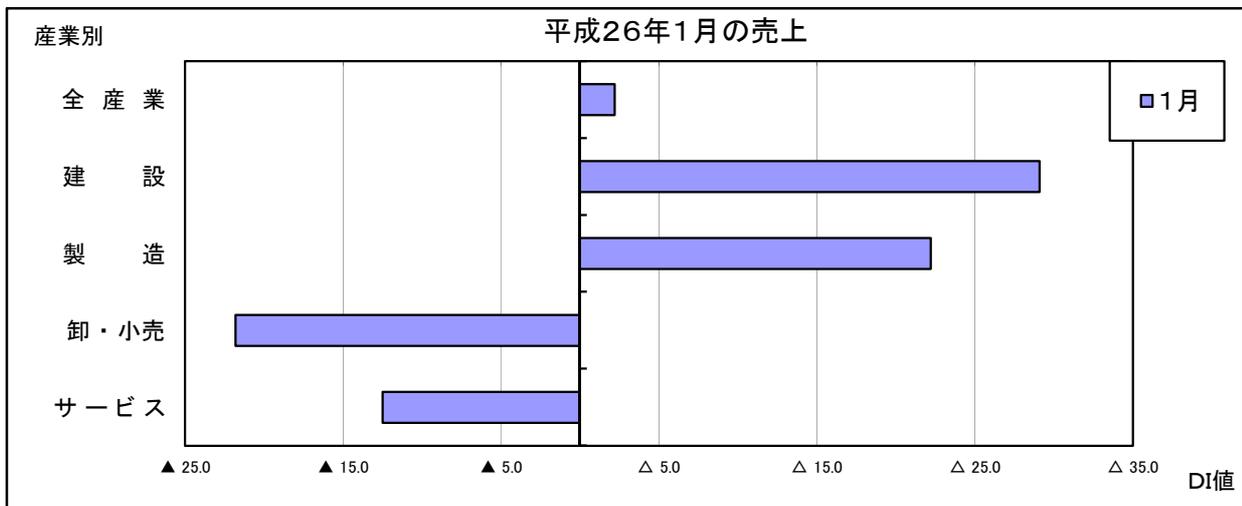
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、建設業△29. 1(同△13. 6)である。マイナスからプラスに転じた業種は、製造業△22. 2(同▲7. 1)で、プラス幅が29. 3ポイントと大幅に拡大した。プラスからマイナスに転じた業種は、サービス業▲12. 5(同±0. 0)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲21. 8(同▲8. 5)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲14. 4(前月水準▲6. 0)となり、マイナス幅が8. 4ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲11. 1(同▲21. 4)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、建設業△8. 3(同△13. 6)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種はサービス業▲18. 7(同△16. 6)で、マイナス幅が35. 3ポイントと大幅に拡大する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲31. 2(同▲20. 0)である。

平成26年1月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成25年 8月	9月	10月	11月	12月	平成26年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲19.3	▲13.9	▲5.8	▲8.0	▲1.2	△2.2	▲14.4(▲6.0)
建設	▲3.8	△11.5	△45.8	△20.8	△13.6	△29.1	△8.3(△13.6)
製造	▲11.7	▲16.6	▲6.2	△13.3	▲7.1	△22.2	▲11.1(▲21.4)
卸・小売	▲33.3	▲34.3	▲35.4	▲39.3	▲8.5	▲21.8	▲31.2(▲20.0)
サービス	▲23.5	▲11.7	▲26.6	▲6.6	±0.0	▲12.5	▲18.7(△16.6)



【平成26年1月の採算についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲20.0(前月水準▲24.0)となり、マイナス幅が4.0ポイント縮小した。

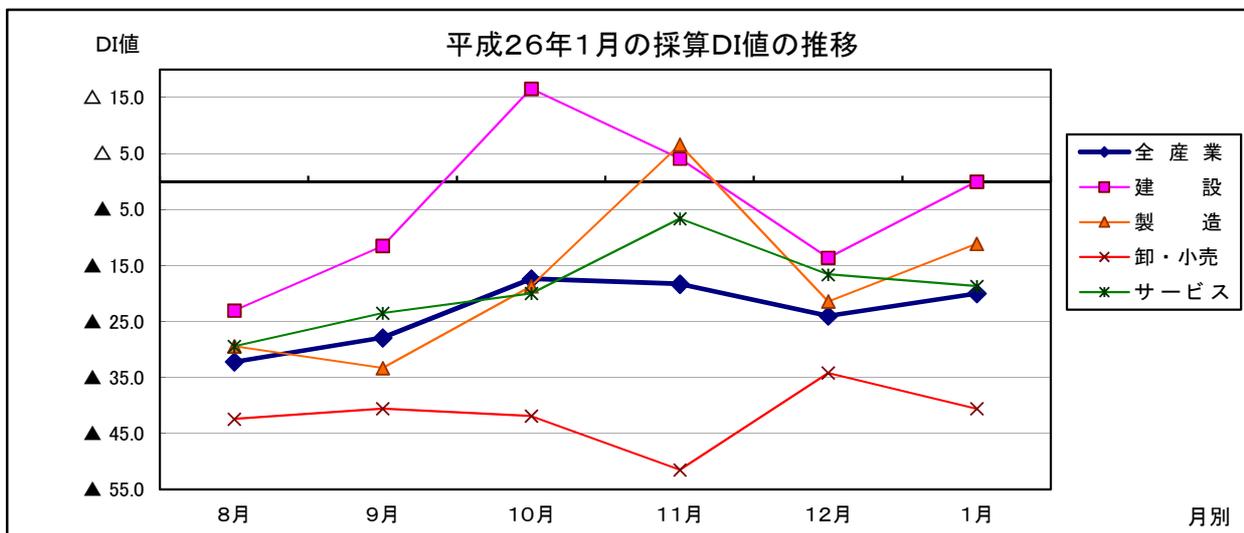
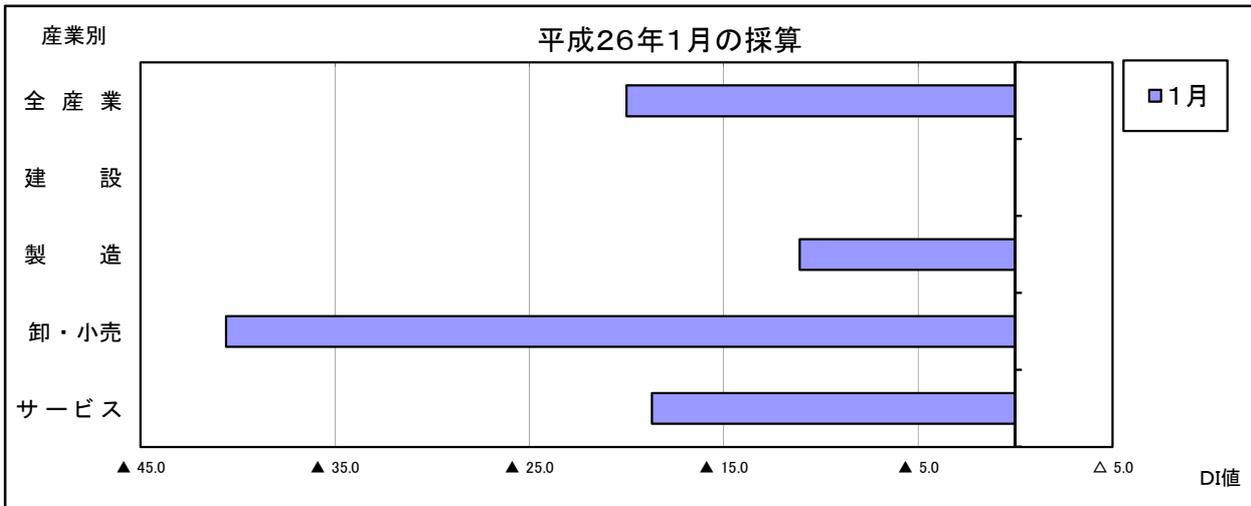
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、建設業±0.0(同▲13.6)である。マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲11.1(同▲21.4)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲40.6(同▲34.2)、サービス業▲18.7(同▲16.6)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲30.0(前月水準▲30.1)となり、マイナス幅が0.1ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲46.8(同▲48.5)、建設業▲12.5(同▲13.6)である。変らない見通しの業種は、サービス業▲25.0(同▲25.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲27.7(同▲14.2)である。

平成26年1月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成25年 8月	9月	10月	11月	12月	平成26年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲32.2	▲27.9	▲17.4	▲18.3	▲24.0	▲20.0	▲30.0(▲30.1)
建設	▲23.0	▲11.5	△16.6	△4.1	▲13.6	±0.0	▲12.5(▲13.6)
製造	▲29.4	▲33.3	▲18.7	△6.6	▲21.4	▲11.1	▲27.7(▲14.2)
卸・小売	▲42.4	▲40.6	▲41.9	▲51.5	▲34.2	▲40.6	▲46.8(▲48.5)
サービス	▲29.4	▲23.5	▲20.0	▲6.6	▲16.6	▲18.7	▲25.0(▲25.0)



【平成26年1月の仕入単価についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲48.8(前月水準▲45.7)となり、マイナス幅が3.1ポイント拡大した。

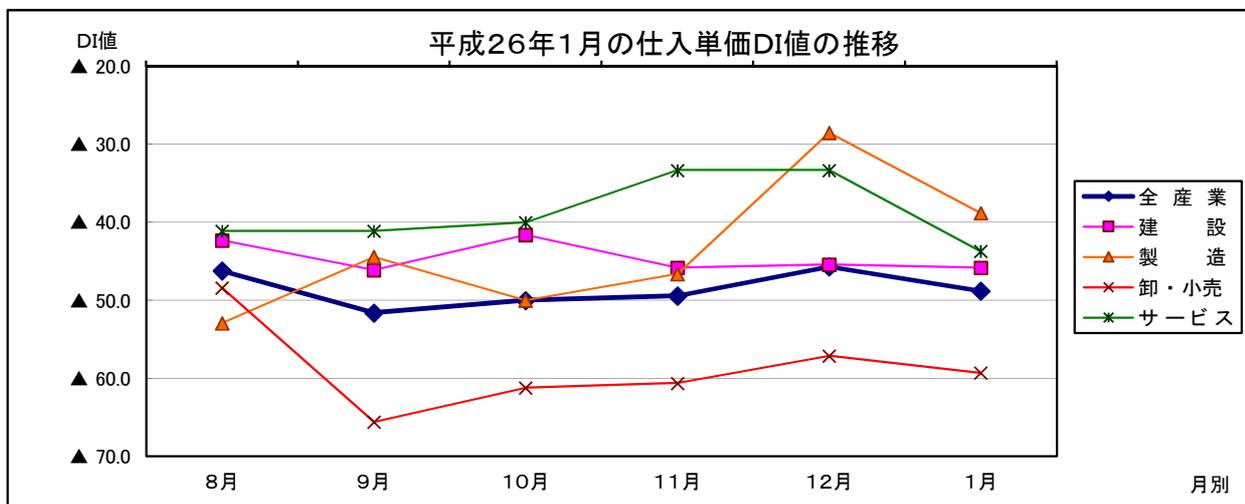
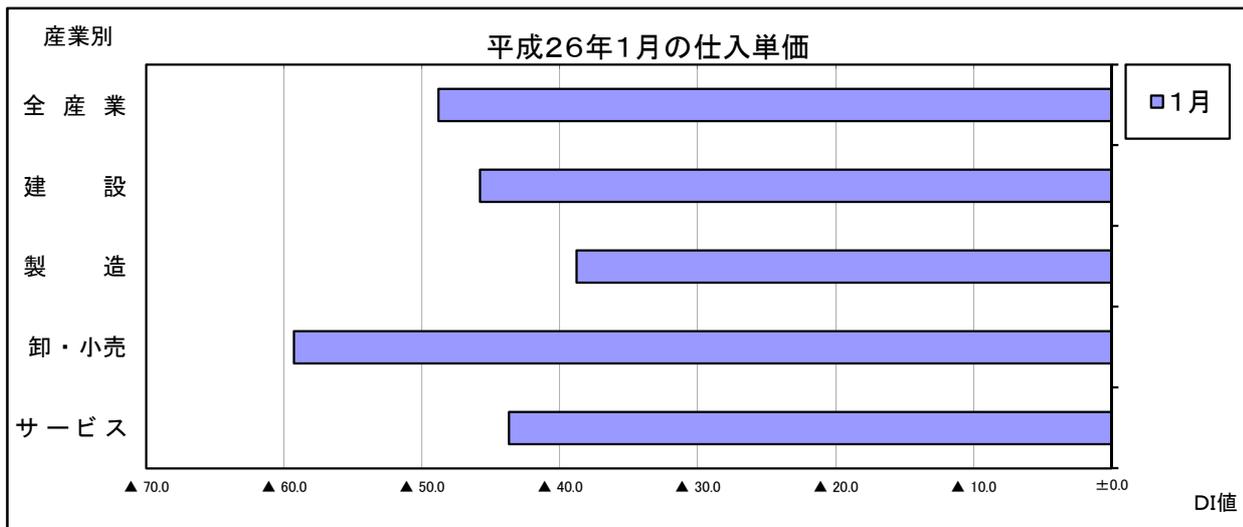
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲43.7(同▲8.3)、卸小売業▲62.5(同▲42.8)、製造業▲38.8(同▲28.5)、建設業▲45.8(同▲40.9)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲45.5(前月水準▲32.5)となり、マイナス幅が13.0ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲43.7(同▲8.3)、卸小売業▲62.5(同▲42.8)、建設業▲45.8(同▲40.9)、製造業▲16.6(同▲14.2)であり、特に、サービス業はマイナス幅が35.4ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成26年1月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成25年 8月	9月	10月	11月	12月	平成26年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲46.2	▲51.6	▲50.0	▲49.4	▲45.7	▲48.8	▲45.5(▲32.5)
建設	▲42.3	▲46.1	▲41.6	▲45.8	▲45.4	▲45.8	▲45.8(▲40.9)
製造	▲52.9	▲44.4	▲50.0	▲46.6	▲28.5	▲38.8	▲16.6(▲14.2)
卸・小売	▲48.4	▲65.6	▲61.2	▲60.6	▲57.1	▲59.3	▲62.5(▲42.8)
サービス	▲41.1	▲41.1	▲40.0	▲33.3	▲33.3	▲43.7	▲43.7(▲8.3)



【平成26年1月の従業員についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△11.1(前月水準△1.2)となり、プラス幅が9.9ポイント拡大した。

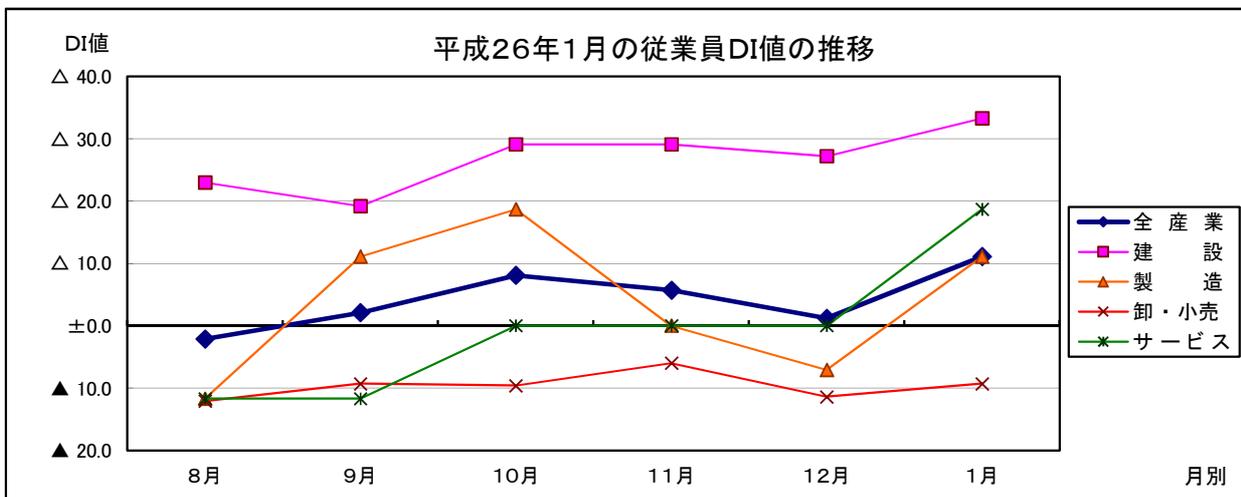
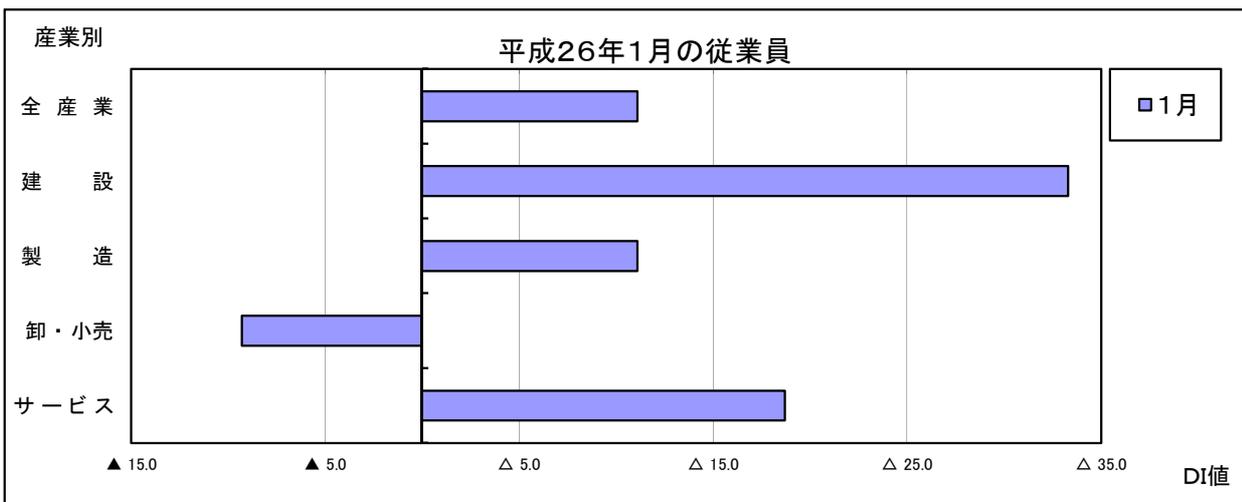
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業△18.7(同±0.0)、建設業△33.3(同△27.2)である。マイナスからプラスに転じた業種は、製造業△11.1(同▲7.1)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲9.3(同▲11.4)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、△5.5(前月水準△3.6)となり、プラス幅が1.9ポイント拡大縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、建設業△25.0(同△22.7)である。マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、サービス業△6.2(同▲8.3)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲3.1(同▲5.7)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲5.5(同△7.1)である。

平成26年1月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成25年 8月	9月	10月	11月	12月	平成26年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲2.1	△2.1	△8.1	△5.7	△1.2	△11.1	△5.5(△3.6)
建設	△23.0	△19.2	△29.1	△29.1	△27.2	△33.3	△25.0(△22.7)
製造	▲11.7	△11.1	△18.7	±0.0	▲7.1	△11.1	▲5.5(△7.1)
卸・小売	▲12.1	▲9.3	▲9.6	▲6.0	▲11.4	▲9.3	▲3.1(▲5.7)
サービス	▲11.7	▲11.7	±0.0	±0.0	±0.0	△18.7	△6.2(▲8.3)



【平成26年1月の資金繰りについての状況】

○ 1月の全産業計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲10.0(前月水準▲12.0)となり、マイナス幅が2.0ポイント縮小した。

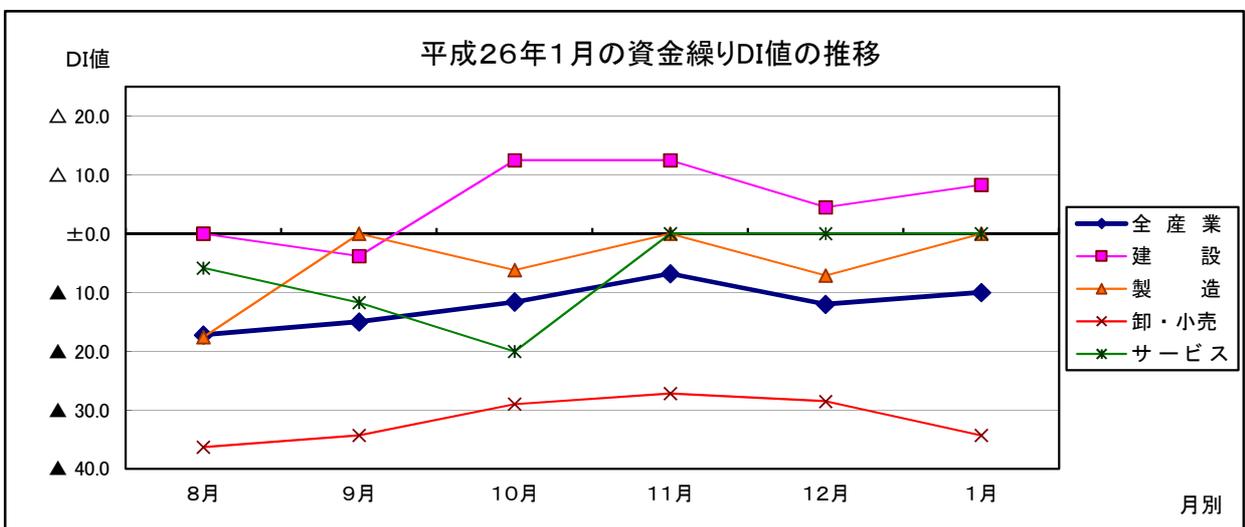
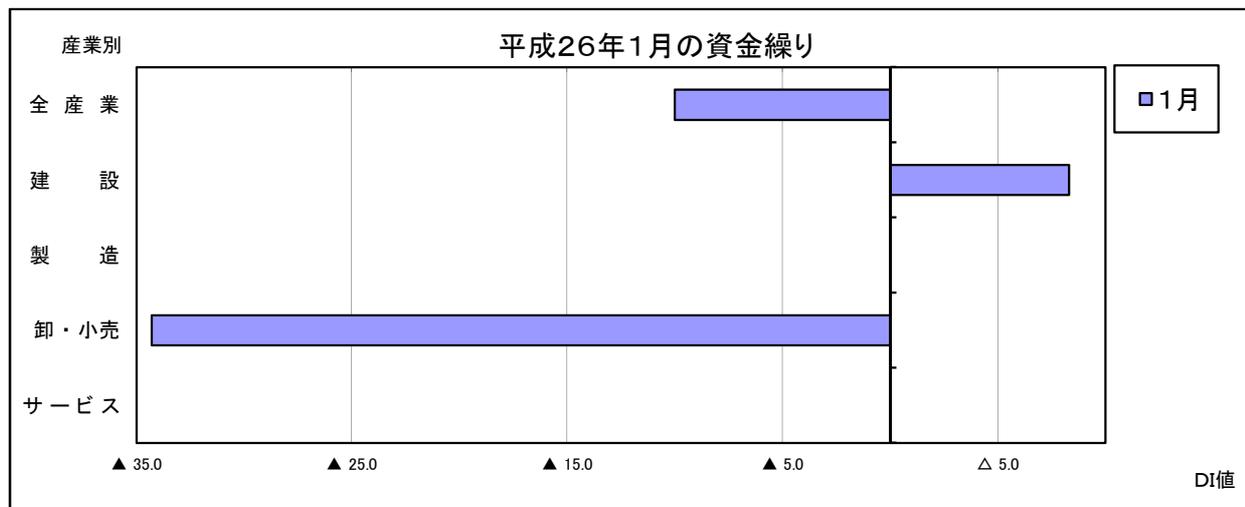
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、建設業△8.3(同△4.5)である。マイナスからプラスに転じた業種は、製造業±0.0(同▲7.1)である。変らない業種は、サービス業±0.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲34.3(同▲28.5)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲14.4(前月水準▲14.4)と変わらない見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲5.5(同▲14.2)、卸小売業▲31.2(同▲31.4)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、サービス業▲6.2(同±0.0)、建設業▲4.1(同△4.5)である。

平成26年1月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成25年 8月	9月	10月	11月	12月	平成26年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲17.2	▲15.0	▲11.6	▲6.8	▲12.0	▲10.0	▲14.4(▲14.4)
建設	±0.0	▲3.8	△12.5	△12.5	△4.5	△8.3	▲4.1(△4.5)
製造	▲17.6	±0.0	▲6.2	±0.0	▲7.1	±0.0	▲5.5(▲14.2)
卸・小売	▲36.3	▲34.3	▲29.0	▲27.2	▲28.5	▲34.3	▲31.2(▲31.4)
サービス	▲5.8	▲11.7	▲20.0	±0.0	±0.0	±0.0	▲6.2(±0.0)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	△ 2.2	▲ 14.4	▲ 20.0	▲ 30.0	▲ 48.8	▲ 45.5	△ 11.1	△ 5.5
建設	△ 29.1	△ 8.3	±0.0	▲ 12.5	▲ 45.8	▲ 45.8	△ 33.3	△ 25.0
製造	△ 22.2	▲ 11.1	▲ 11.1	▲ 27.7	▲ 38.8	▲ 16.6	△ 11.1	▲ 5.5
卸・小売	▲ 21.8	▲ 31.2	▲ 40.6	▲ 46.8	▲ 59.3	▲ 62.5	▲ 9.3	▲ 3.1
サービス	▲ 12.5	▲ 18.7	▲ 18.7	▲ 25.0	▲ 43.7	▲ 43.7	△ 18.7	△ 6.2

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 2.2	▲ 10.0	▲ 10.0	▲ 14.4
建設	△ 29.1	△ 16.6	△ 8.3	▲ 4.1
製造	△ 22.2	▲ 5.5	±0.0	▲ 5.5
卸・小売	▲ 40.6	▲ 34.3	▲ 34.3	▲ 31.2
サービス	±0.0	▲ 6.2	±0.0	▲ 6.2

【平成26年1月の業種別業界内トピックス】

業種別	概況		業種
建設業	納期が期末のまま、遅れていた工事をいっせいに終わらせようとする為、様々な職種で職人不足が顕著になっている。現場数と職人の比率が絶望的に悪い。数人ではいるべきところに1人、2人となっている現場も多く、抜本的な見直しが早急に望まれる。一部の元請では職人の不足に対し、育成への補助を始めたところもあるが、まだ一部であり、政府の現場をだせばよくなる的な片手落ちの政策では、実感が伴わない。	人手不足	石工れんがタイルブロック工事業
	年度末と消費税のアップを控えて、工事の受注は多いが、原材料の値上がりだけでなく品薄が広がっている。価額に転嫁できず苦しい経営が続くだろう。	消費税増税 受注増 原材料の値上げ 価格転嫁	電気工事業
	前年からの業者不足、職人不足が続いている。建築業界全般の業者・職人不足の為、工期の遅れが目立つ。不景気に依るメーカーの生産縮小もあり、材料の生産が追いつかず、材料確保も早めの手配が必要となっている。工期に間に合わせる為、応援の作業員を高い賃金での確保となり、採算が合わない結果となっている。すでに材料が高騰、又、輸入材も使っている為、施工単価の見直しを要求しているが、検討中との回答のまま改善はされていない。又、今年に入り、リフォーム・メンテ工事が増え、雇用・採算共に厳しい状況が続いている。	人手不足 工期の遅れ 生産縮小 賃金上昇 不採算 材料費高騰 施工単価据え置き	その他の職別工事業
	ダンブや人夫、下請けの値段が上昇している。	賃金上昇	土木工事業
	相変わらず消費税増税前の駆け込み需要なのか、新築・リフォーム・一般顧客からの畳工事の注文が増加。	消費税増税 駆け込み需要 受注増加	内装工事業
	6月頃までは仕事量有り。7月から先は？	7月以降懸念	その他の職別工事業
製造業	円安傾向による原料価格の値上がりが懸念されます。(特に夏場に向けて)	円安の影響 原材料の値上げ	畜産食料品製造業
	消費税増税絡みの駆け込み発注は現時点、見受けられない。原材料価格は為替と市中の在庫量とのバランスが保たれているためか、比較的安定している。	消費税増税 原材料価格安定	特殊産業用機械
	設備の導入時期が重なるため、人員が不足している。消費税増税が要因の1つではありそうだが、新規導入に並行して改造や変更で対応する案件も多く、財布の紐はキツイ雰囲気を感じられる。部品の製作依頼先でも、「仕事一杯」で忙しい所はある。但し一時的で先行きは見通せないようである。	人手不足 消費税増税 先行き不透明	その他の機械・同部品製造業
	消費税増税前の仮需を見込むが、4月以降の反動については不透明	消費税増税 4月以降不透明	酒類製造業
	印刷業界の技術開発は目を見張るスピードで進化しています。広告手段も個人で出来るようになってきました。仕事をして成り立たせる為の意識改革が常に問われている状態です。	技術開発の進化 意識改革	印刷業
	消費税まへの駆け込み受注にて年末より増産傾向。3月以降の減算前提での増産の為、仕事の先食い、固定費増加、等良くない傾向にある。	消費税増税 駆け込み需要 経費増加 先行き不透明	金属加工機械製造業
	消費税増税について、増税後の状況が客先も不透明なままで売上が落ちるのか維持できるのか不明なままである。	消費税増税 先行き不透明	その他の金属製品製造業
	資源国に対しての輸出の伸び悩みがあり、受注量が減少している。なお、受注量の減少している中、雇用に関しては現在の所維持したいと考えているが、今後は不透明である。	輸出伸び悩み 受注量減少 先行き不透明	一般産業用機械・装置製造業
	正月動向：動員客数とも苦戦、特に婦人衣料のセールが前年を大きく下回る。ただし中旬以降春物商材に動きが出てくるにつれて持ちなおす。12月苦戦の高額商材は、1月に入って再び動きが活発になる。	動員苦戦 セール不調 高額商品活発	百貨店
	12月が業界では前半全く振るわなかったが、後半やや持ち直した感が有ったが、新年に入り昨対では客単価は上がっているがバーゲンでも客数が増えず、結果売上げが減少した感じ。	客単価上昇 バーゲン不調 売上げ減少	婦人・子供服小売業

【平成26年1月の業種別業界内トピックス】

卸小売業	仕入単価は、材料が輸入品の為替変動による上昇の為単価が上がり始めている。購買欲は一部の投資等での収益があった方がやや高額品の購入が有るが、一般にはまだ波及しておらず節約ムードが強い、この為に日々の売上が乱高下している、今後もしばらくは続きそう。	為替変動 原材料の値上げ 節約ムード 売上げ流動的	時計・眼鏡・光学機械小売業
	4月からの消費税の増税により、売上の下落が予想されます。また3月の末からは値段の表示などの変更があり作業量が多くなると思われる。	消費税増税 価格表示変更 4月の反動	その他の各種商品小売業
	1月度、毎年盛況である初売りの福袋販売は、昨年40周年により個数を増した反動により減少したものの、実需需要の伸びにより前年を上回る結果となった。以降、セール前の買い控えもみられず売上高は好調に推移した。9日(木)から開催したセールは、初日厳しい立ち上がりとなったが、昨年同期中に大雪の影響を受けた反動もあり、売上高は前年を上回る結果となった。セール終了後からはクリアランスを開催、最高気温が下がったことからセール商材の消化にも繋がり、月末に掛けても前年を上回る推移となった。	福袋 セール 売上げ好調 天候の影響 クリアランス	その他の各種商品小売業
	年が明けても原材料の値上がり相次ぐ。消費税アップを控え商品の値上げも検討しなくてはならない。	原材料の値上げ 消費税増税 値上げ検討	菓子・パン小売業
	昨年対比で客数売上げ共伸長しています。	売上げ上昇	その他の各種商品小売業
	原材料の値上げラッシュ。卵、乳製品等、特にアーモンドは5割増し。	原材料の値上げ	菓子・パン小売業
	先月に引き続き、野菜・果実とも昨年の異常気象による育成不振、急な寒冷等により、入荷不足から一部商品は高値傾向にあります。今後は冷え込みが緩みだすと、安定入荷も見込まれる商材も出てきます。柏市では、We Love Kashiwaキャンペーンの事業に市場からも協力的発信をして、活性化を図りたいと思います。	天候の影響 育成不振 入荷不足 高値傾向	食料・飲料卸売業
	一定期間落ち着いていたが、今月から価格改正をした途端、同業他社へ一部の契約者は切り替えた。原価差額分のみなのに便乗値上げのように吹聴され、又しばらくはたちごっこが続くだろう。	価格改正 値上げの影響	燃料小売業
	人手不足、特に若年層の減少が見込まれ、仕事量は増加するであろう。この先の働き手の確保を考えている。オイルショック後、ベテラン熟練者の高年齢による退職者の不足分の補いが充分でなかった為、人手不足の状況となっている。	人手不足 若年層の減少 仕事量増加	一般機械器具卸売業
サービス業	仕入れ単価の上昇。食材の値上げの後、アルコール類値上げの通告。「日本酒・ワインの値上げ」1月よりメーカーの値上げ、問屋さんは2月より値上げになる。年末年始の宴会が多くあり、売上げ・利益は上昇、2月3月4月は不確定？	仕入れ単価上昇 アルコール類値上げ 宴会は好調	酒場・ビヤホール
	宿泊はビジネス需要の動きが遅く前半の稼働を落とし月全体の稼働に影響し売り上げ悪し。宴会は昨年より原油の値上がりによりハウス物の野菜・イチゴが上がる。又メニュー誤表示の影響もあり牛肉の値上がりとなる。宴会は昨年並みの売り上げである。	売上げ減少 原材料の値上げ 宴会は昨年並み	ホテル
	個人需要は国内・海外とも1月と3月が前年超え。東京近郊、関西、ハワイ、ヨーロッパは不動の人気。法人需要は昨年を下回っている感がある。消費税増税後の動きが心配。	個人需要好調 法人需要苦戦 消費税増税	旅行業
	4月の消費税アップの影響が懸念される。	消費税増税	広告代理業
	1月に入ってお客様からの問合せ数が減少しています。不動産の仕入れ価額、建築費、資材の仕入れ単価は上昇しています。採算は悪化。	問合せ減少 原材料の値上げ 採算悪化	不動産管理業
	所有不動産物件の修繕やリフォームをやるにも職人さんと材料が足りません。ミニバブル期みたいです。	人手不足 材料不足	不動産賃貸業
	今後不動産所有に対する税金やコストが上昇しそうなのでそれに対策に取り組みたい。	コスト上昇の気配	不動産賃貸・管理業
	年度末が近付き小物案件がでてますが、新年度に繋がるとは思えないし、ろものです。アベノミクスは何処やら、賃金UPなど検討外、単発企業では難しく、同業者集まり大きな案件を創る企画を行政を併せて検討出来たらと思う。	アベノミクス	ソフトウェア業

### ◎消費税増税

- 相変わらず消費税増税前の駆け込み需要なのか、新築・リフォーム・一般顧客からの畳工事の注文が増加。 内装工事業
- 消費税増税絡みの駆け込み発注は現時点、見受けられない。原材料価格は為替と市中の在庫量とのバランスが保たれているためか、比較的安定している。 特殊産業用機械
- 消費税増税前の仮需を見込むが、4月以降の反動については不透明 酒類製造業
- 消費税まへの駆け込み受注にて年末より増産傾向。3月以降の減算前提での増産の為、仕事の先食い、固定費増加、等良くない傾向にある。 金属加工機械製造業
- 4月からの消費税の増税により、売上下落が予想されます。また3月の末からは値段の表示などの変更があり作業量が多くなると思われる。 その他の各種商品小売業
- 消費税増税後の動きが心配。 旅行業
- 4月の消費税アップの影響が懸念される。 広告代理業

### ◎原材料の値上げ

- 年度末と消費税のアップを控えて、工事の受注は多いが、原材料の値上がりだけでなく品薄が広まっている。価額に転嫁できず苦しい経営が続くだろう。 電気工事業
- 円安傾向による原料価格の値上がりが懸念されます。(特に夏場に向けて) 畜産食料品製造業
- 仕入単価は、材料が輸入品の為替変動による上昇の為単価が上がり始めている、購買欲は一部の投資等での収益があった方がやや高額品の購入が有るが、一般にはまだ波及しておらず節約ムードが強い、この為に日々の売上が乱高下している、今後もしばらくは続きそう。 時計・眼鏡・光学機械小売業
- 年が明けても原材料の値上がりが相次ぐ。 菓子・パン小売業
- 原材料の値上げラッシュ。卵、乳製品等、特にアーモンドは5割増し。 菓子・パン小売業
- 宿泊はビジネス需要の動きが遅く前半の稼働を落とし月全体の稼働に影響し売り上げ悪し。宴会は昨年より原油の値上がりによりハウス物の野菜・イチゴが上がる。又メニュー誤表示の影響もあり牛肉の値上がりとなる。宴会は昨年並みの売り上げである。 ホテル
- 1月に入ってお客様からの問合せ数が減少しています。不動産の仕入れ価額、建築費、資材の仕入れ単価は上昇しています。採算は悪化。 不動産管理業

### ◎人手不足

- 納期が期末のまま、遅れていた工事をいっせいに終わらせようとする為、様々な職種で職人不足が顕著になっている。 石れんがタイルブロック工事業
- 前年からの業者不足、職人不足が続いている。建築業界全般の業者・職人不足の為、工期の遅れが目立つ。 その他の職別工事業
- 設備の導入時期が重なるため、人員が不足している。 その他の機械・同部品製造業
- 人手不足、特に若年層の減少が見込まれ、仕事量は増加するであろう。この先の働き手の確保を考えている。オイルショック後、ベテラン熟練者の高齢による退職者の不足分の補いが充分でなかった為、人手不足の状況となっている。 一般機械器具卸売業
- 所有不動産物件の修繕やリフォームをやるにも職人さんと材料が足りなくて 不動産賃貸業  
す。ミニバブル期みたいですよ。

## 平成26年1月CCI - LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲2.2に対し、「CCI-LOBO」が▲3.1で柏の方がマイナス幅が0.9ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業、製造業、サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業で、10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△2.2に対し、「CCI-LOBO」が△2.7で柏の方がプラス幅が0.5ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業、製造業で、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業、サービス業で、サービス業は10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲20.0に対し、「CCI-LOBO」が▲10.5で柏の方がマイナス幅が9.5ポイント大きい。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業、製造業、卸小売業、サービス業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲48.8に対し、「CCI-LOBO」が▲49.8で柏の方がマイナス幅が1.0ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業、製造業、サービス業で、建設業と製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業で、10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△11.1に対し、「CCI-LOBO」が△11.2で柏の方がプラス幅が0.1ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業、製造業、サービス業。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業で、10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲10.0に対し、「CCI-LOBO」が▲7.0で柏の方がマイナス幅が3.0ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業、製造業、サービス業で、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業で、10ポイント以上悪い。

# 平成26年1月の木の景気天気図

木の景気情報と全国CCI-LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 2.2	 △ 29.1	 △ 22.2	 ▲ 40.6	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 3.1	 18.4	 △ 1.9	 ▲ 14.3	 ▲ 10.4

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 △ 2.2	 △ 29.1	 △ 22.2	 ▲ 21.8	 ▲ 12.5
CCI-LOBO	 2.7	 24.9	 △ 10.7	 ▲ 15.9	 ▲ 0.3

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 20.0	 ±0.0	 ▲ 11.1	 ▲ 40.6	 ▲ 18.7
CCI-LOBO	 ▲ 10.5	 1.6	 ▲ 6.3	 ▲ 19.5	 ▲ 15.1

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 48.8	 ▲ 45.8	 ▲ 38.8	 ▲ 59.3	 ▲ 43.7
CCI-LOBO	 ▲ 49.8	 ▲ 67.5	 ▲ 51.8	 ▲ 38.2	 ▲ 46.8

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 △ 11.1	 △ 33.3	 △ 11.1	 ▲ 9.3	 △ 18.7
CCI-LOBO	 △ 11.2	 △ 31.5	 △ 4.1	 △ 6.3	 △ 13.5

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 10.0	 △ 8.3	 ±0.0	 ▲ 34.3	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 7.0	 ▲ 2.8	 ▲ 3.0	 ▲ 12.3	 ▲ 9.8

 は「木の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「木の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

# CCI - LOBO

## 商工会議所早期景気観測 (1月速報)

調査期間：平成26年1月17日～23日

調査対象：全国の417商工会議所が3128業種組合等にヒアリング調査を実施

### 全国の業況

業況DIは、一段の改善。先行きはコスト増や駆け込み需要の反動への懸念も

1月の全産業合計の業況DIは、▲3.1と、前月から+4.3ポイントの改善。住宅着工などが好調な建設業がけん引したほか、自動車関連の業績改善が幅広い業種に波及している。また、高価格帯商品への志向の強まりに加え、消費税引き上げ前の駆け込み需要が始めており、中小企業の景気感は、売上・受注の増加を背景に、一段の改善がみられる。他方で、仕入コストや電力料金に加え、人材確保の困難さから人件費の負担も増大する中、販売価格への転嫁遅れにより、売上増に見合う収益があらならないとの声もあり、景気回復を実感できない状況もみられる。

先行きについては、先行き見通しDIが▲7.4（今月比▲4.3ポイント）と、悪化を見込む。消費税引き上げ前の駆け込み需要などにより、3月まで堅調な推移が見込まれる一方、家計への負担増に備えた消費手控えの動きも予想される。また、業況改善をけん引してきた建設

業や製造業でも、価格転嫁の遅れによる収益悪化に加え、4月以降の反動減への懸念の声が高まるなど、先行きに対して慎重な見方が伺える。

産業別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、サービス業で悪化、その他の4業種で改善した。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「資材価格上昇分が施工単価に反映されつつあり、採算が好転」（一般工事業）、「住宅などの着工が続き、足元の業況は良いが、4月以降、反動減や消費税引き上げ分の転嫁などへの対応に苦慮」（一般工事業）、「老朽設備の入替などが増加。取引先の投資意欲が向上している」（電気通信工業）

「建設・工作機械向けや医療機器向けの受注が好調」（電子回路製造業）

【卸売業】「仕入価格が上昇しているものの、販売価格への転嫁が追いつかず、売上増に見合う収益が足りない」（工場用品卸売業）、「消費税引き上げ後の消費冷え込みに備え、経費削減などの対策を進める」（食料品・日用品卸売業）、「仕入価格上昇分を転嫁したが、売上は堅調に推移しており、収益も改善した」（自転車・同部品卸売業）

【小売業】「初売りが好調だったほか、50万円以上の福袋も売れ行きが良かった」（百貨店）、「3月末までに納品する案件が増加。他方で、4月以降の反動減が見込まれるため、先行きに不安が残る」（文房具販売店）、「県外の同業者やコンビニが相次いで出店。競争激化が見込まれ、売上への影響が懸念される」（食料品スーパー）

【サービス業】「消費税引き上げやパソコンソフトのサポート終了を控え、案件は増加しているものの、技術職が不足しており、対応しきれない」（ソフトウェア業）、「アルバイトの募集をしているが、応募が無く、業務に支障が出ている」（飲食店）、「利用客は増えているものの、食料品や光熱費の負担増が続き、収益改善が遅れている」（旅館業）

【製造業】「サスペンションなどの引き合いが増加。増員して対応したいが、希望する人数を確保できない」（自動車部品製造業）、「消費税引き上げ前の駆け込み需要により、年度内は受注増が続く見込み」（調味料製造業）

【サービス業】「消費税引き上げやパソコンソフトのサポート終了を控え、案件は増加しているものの、技術職が不足しており、対応しきれない」（ソフトウェア業）

### 全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
8月	▲15.7	3.9	▲20.7	▲26.8	▲25.8	▲10.2
9月	▲15.1	4.1	▲16.2	▲20.7	▲25.1	▲14.7
10月	▲11.9	18.2	▲13.7	▲17.5	▲22.8	▲18.4
11月	▲12.8	14.6	▲11.1	▲16.2	▲26.8	▲18.8
12月	▲7.4	14	▲2.4	▲10.6	▲24.2	▲9.1
1月	▲3.1	18.4	1.9	▲9.1	▲14.3	▲10.4
見通し	▲7.4	▲0.4	▲3.8	▲10.9	▲7.3	▲14.7

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

い」（ソフトウェア業）、「アルバイトの募集をしているが、応募が無く、業務に支障が出ている」（飲食店）、「利用客は増えているものの、食料品や光熱費の負担増が続き、収益改善が遅れている」（旅館業）